

# 私の半生

才能教育研究会会長

鈴木 裕子 ④

バイオリン

近所には、同じか少し年上の男の子や女の子がいて、学校から帰るとすぐにバイオリンのお稽古をすませて、みんなと遊んだ。私たちは裏の山に行つて遊んだり、缶蹴りやおはじき、ゴム跳び、鬼ごっこをして遊んだ。

隣の家は火薬店だったが、その子どもたちが母にピアノを習いに来っていた。私は学校でいじめられないようにするには、どうすればよいかと、子どもながら考えた。きれいな洋服を着ているといじめられるような気がして、できるだけ地味なものを着た。

ただ、バイオリンの発表会では、少し皆とは違うものを着た。それは、母のセルの着物を解いて作った花柄の赤い洋服。松本市の洋



演奏旅行に豊田さんらと。本人左から2人目

服屋さんで作ってもらったものであるが、私もつれしかった。だんだんバイオリンをはそれを着た時、とてを弾くことが楽しくな

## レッスンに演奏旅行に 楽しく

り、松本市の音楽院へきいちゃん(真峰紀一)毎週土曜日と日曜日に移動はいつも汽車を利用した。当時、木曽福島から松本まで2時間かかったが、朝6時の電車に乗って通った。当時伯父は、才能教育の理念を説くために子どもたちを連れて演奏旅行をした。大

阪、新潟、(現在の市役所の駐車場あたり)に住んでいて、離れの土蔵の2階には耕ちゃんが住んでいた。伯父には子どもがいなくて、私たちが6人の小学生の生徒たちが一緒だったが、私もその中の一人であった。

演奏旅行には、耕ちゃん(豊田)、「聞き書き・佐藤文字」(聞き書き・佐藤文字)はそれを着た時、とてを弾くことが楽しくな

耕児さん)、絃子ちゃん(正岡絃子さん)、